

VI. 研究

1. 研究活動

(1) 研究業績

1) 研究業績基準

<著書>

(11 学術書) 博士論文、単・共・編著を問わないが直接執筆に参加した専門書。編者のみの場合は(12 その他)とする。

(12 その他) 学術書以外の専門分野の著書(教科書、入門書、啓蒙書等)。

<学術論文(原著論文)>

(21 学会誌) 学会誌及び専門誌等で査読を受けた論文。

(22 紀 要) 査読を受けた紀要論文。査読を受けない論文は(23 その他)とする。

(23 その他) 上記以外の学術論文。

<学術論文(総説)>

(24 総 説) 学会誌や専門誌などに掲載された総説、解説、展望等。

(25 その他) 研究報告。

<翻訳>

(31 学術書) 専門書及び専門分野における教科書、入門書等。

(32 その他) 専門分野以外の翻訳書。

<作品及び演奏発表等>

(41 作品及び演奏発表等)

情報処理による絵、音楽等の作品で公的に発表されたもの。

体育・スポーツの分野における作品で公的に発表されたもの。

(例：ダンス、体操などの発表)

<学会記録>

(51 一般発表) 学会及び各種学術研究会での発表で記録に残るもの。

(52 特別講演)

(53 シンポジウム、パネル)

(59 その他)

<口頭発表 記録に残らないもの>

(61 一般発表) 学会及び各種学術研究会での発表で、その内容は記録に残らないが発表年月日・機関・題目が残るもの。

(62 一般発表)

(63 シンポジウム、パネル)

(69 その他)

<その他の文筆活動>

(71 その他の文筆活動)

公的に発刊された出版物に掲載された著作で、専門・専門外を問わないが業績としてふさわしい水準のもの。

<その他>

(81 外部資金獲得)

(89 その他) 上記の全ての業績区分に含まれないが、業績としてふさわしい水準のもの

(注) 本基準の運用については各学科に任せるものとする。

2) 研究業績一覧

学科	著書		学術論文		翻訳		作品演奏		学会記録		口頭発表		その他の 文筆活動		その他		計
	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	
情報処理学科	—	1	2	2	—	—	—	—	4	2	—	—	—	—	—	—	11
国際文化学科	1	—	7	3	—	—	—	—	6	1	1	—	3	—	2	—	24
計	2		14		—		—		13		1		3		2		35

<研究業績表の見方>

著者・発表者	著書・論文・演題名等		
発行所・掲載誌・学会等	巻・号	ページ	発表形態
	概	要	

<研究業績内容>

《情報処理学科》

橋本恵子、金子大輔、西村靖史、宮川幹平、岡本尚志、林泰子	留学生のための日本語で学ぶパソコンリテラシー		
共立出版	ISBN978-4-320-12383-0	pp. 125-151	著書（その他）
共著（第7章「ビデオ編集」担当）：留学生を対象とした、日本語能力とコンピュータ利用スキルの向上をともに図ることを目的とした教科書である。第7章では、Windowsムービーメーカーを利用した基本的なビデオ編集技術について、具体的な操作方法や演習問題を含めて、解説している。			
原田裕二郎、藤本邦昭、矢原充敏、江口啓	A Voltage controlled oscillator with threshold automatic compensation based on schmitt-trigger circuit using CMOS inverter		
ICIC Express Letters	Vol. 8, No. 3	pp. 661-667	学術論文（学会誌）
本論文では、閾値自動補正回路を有するCMOSインバータによるシュミットトリガ回路と演算増幅器によるミラー積分回路を用いたVCOを提案している。本回路は、高周波領域においても回路素子遅延の影響を受けることなく、安定した動作を実現できる。			
赤井ひさ子	インドの初等教員養成：教員養成課程在學生と連邦政府の教員養成政策		
東海大学短期大学（部）紀要	第48号	pp. 1-8	学術論文（紀要）
インドの初等教員養成について、現地調査の結果を分析し、連邦政府の方針と比較した論文。インドの今後の初等教員養成政策に必要な要件を検討した。			
宮川幹平、八尋剛規、矢原充敏	学生カルテと統合されたリフレクティブeポートフォリオの開発		
東海大学短期大学（部）紀要	第48号	pp. 35-42	学術論文（紀要）
学生による主体的な学習を生み出す教育システム実現するべく、学生の教室内外における活動のエビデンスを集積・構造化するeポートフォリオを設計・開発した。このシステムの最大の特徴は、既に実運用中である、学生に関する幅広い情報を蓄積し、教職員間で共有するシステム：学生カルテ（SRMS）と統合することにより、教職員による学生へのフィードバックと学生自身による省察を促す仕組みにある。本論文では、新統合システムの技術及び教育的な特徴を示すとともに、プロジェクト学習を中心とした教育指導での実践報告を行う。			
八尋剛規	コミュニケーション能力を高めるタブレットPC活用の在り方		
福岡市教育センター研究紀要	第942号	情報 1-27	学術論文（紀要）
コミュニケーション能力を高めることをめざし、タブレットPCと協働学習支援アプリを用いた交流活動を通じて、近年導入が進められているタブレットPC活用の在り方についての研究を行った。タブレットPCを発表者への支援、聞き手への支援、考えを深めることへの支援として活用した。その結果、相互にコミュニケーションをとりながら自分の考えを深めあう様子が見られた。			
赤井ひさ子	インド・県教育研究所：初等教員養成課程在學生への質的検討の試み		
日本南アジア学会九州部会研究会			学会記録（一般発表）
インドの初等教員養成について、県教育研究所の養成課程での現地調査をもとに発表した。在學生の課程環境、就学意識、養成課程への評価などについて検討した。			
赤井ひさ子	インド・県教育研究所での初等教員養成：就學生に焦点をあてて		
第50回日本比較教育学会			学会記録（一般発表）
インドの初等教員養成について、養成課程就學生に焦点をあてて発表した。教育実習を貴重な経験として評価していることなどを明らかにした。			
宮川幹平、八尋剛規、矢原充敏	教室内外における学生の多様な活動を可視化するeポートフォリオの開発と運用		
平成26年度 教育改革 ICT 戦略大会			学会記録（一般発表）
教職員による学生情報の集約共有を実現している学生カルテシステムに、教室内外における学生活動について学生自らが記録と振り返りを行うeポートフォリオを組み合わせた新システムに関する開発・運用報告を行った。特に、eポートフォリオへの記録が「報告の			

ための報告」に陥ることを回避するよう、学生カルテとの連動性を活かしながら、教職員から学生に対して、適切なタイミング・内容でアプローチすることを支援する工夫を施した。このことによって、学生自身による省察の教育効果が高まることを期待している。			
原田裕二郎、藤本邦昭、矢原充敏、江口啓	A Study on Flash Type A/D Converter Using Neuron CMOS Inverter		
the 5th KGU International Engineering Conference (KKU-IENC 2014)			学会記録 (一般発表)
アナログコンパレータに比べて消費電力とレイアウト面積の小さなニューロンCMOSインバータを電圧レベルの判定部品として使用することで、消費電力とレイアウト面積を低減したフラッシュ型AD変換回路を発表した。			
八尋剛規	Web コンテンツ作成実習用フロントエンドの開発		
日本産業技術教育学会 第27回九州支部講演要旨集		pp101-102	学会記録 (一般発表)
Webブラウザ上でHTML, CSSやJavaScriptの編集、画像ファイルなどのアップロード、編集履歴、動作確認などのWebコンテンツ作成支援機能と、雛形ファイル配布、進捗状況把握などの授業支援をもつ実習用フロントエンド(WebEditor: 仮称)を作成し、実践を行い、授業評価の結果等をもとに考察を行った。			
八尋剛規	ルーターエミュレータの試作 ルーティングの見える化ー		
日本産業技術教育学会 第57回全国大会		p79	学会記録 (一般発表)
ルーティングの動き・仕組みを「見える化」するためにWebブラウザ上で実行できるルーターエミュレータの試作と、授業での試用結果について報告した。			

《国際文化学科》

林大仁	初級から上級まで学べる完全マスターハングル文法第2版		
		p416	著書 (その他)
初級から中級までの韓国語文型を整理し、分かりやすく解説した韓国語の学習書。2004年に出され、長年愛顧され続けた同本の初版に大幅に手を加え、第2版として出版したもの。			
柏木翔	Cooperative Promotion System for Rural Destinations		
Asia Pacific Tourism Association Conference Abstract Proceedings	第20号	pp. 44-47	学術論文 (学会誌)
This study explored impediments and suggestions for establishing a cooperative promotion system for rural destinations. Munakata city, Japan was used as a case study. Interviews to stakeholders revealed some issues include limited budgets, the lack of staff especially those who are trained in tourism marketing, the lack of relevant statistical data that assesses promotional activities, and inconsistent thoughts about the leadership of cooperative promotion. Nevertheless, all interviewees had a strongly positive attitude towards cooperative promotion. An analysis of the interviews provided a framework for Munakata's cooperative promotion system illustrating the current interactive relationships between stakeholders. The framework suggests the necessity of having the DMO, the MTO in the case of Munakata, as the system's leader.			
柏木翔	Career Intentions of Students Studying Tourism and Hospitality in Japan		
Proceedings of the 25th Annual CAUTHE Conference	第25号	pp. 559-562	学術論文 (学会誌)
This paper investigates the influence of tourism and hospitality (T&H) education on students' career intentions in Japan's T&H industry. A two-year Japanese college was used as a case study, and 81 students were surveyed. The results indicate that T&H lecturers should try to interest students who have no specific T&H career intentions in the T&H industry as "their second or third career option." In addition, current T&H work information such as salary and working conditions should be included in T&H lectures. This will help students with T&H career intentions seek appropriate employment opportunities.			
柏木翔	戦略的マーケティング理論による観光側面からの留学インバウンドマーケティング-豪州ブリスベン市の事例-		
日本国際観光学会論文集	第21号	pp. 113-119	学術論文 (学会誌)
ブリスベンの留学生インバウンドマーケティングイニシアティブを先事例に用い、留学生数を増加させることに向けたマーケティングチャンネルの在り方を示した。教育及び観光の両産業が教育旅行への関わり合いを持つことやステークホルダー同士の責務及び関係性、マーケティング活動での組織が担う役割の複雑性等の教育旅行マーケティングの問題点を整理した。			
チョウアンナ	謝罪表現における日中間の相違についての一考察		
東海大学日本文学会「湘南文学」蟹江秀明先生退職記念号	第49号		学術論文 (学会誌)
日中の謝罪表現の相違点に着目し、両国の文化的深層において謝罪行為がどのように捉えられているかを考察した。日中両国は、文化的背景、是非の判断の基準、民族の心理が異なるので、謝罪に対する理解も異なっている。例えば、上下・親疎・長幼などの人間関係の分別、定型表現と非定型表現の使い分け、年齢、社会地位・権力の影響など、文化、倫理道徳により謝罪表現の戦略や行為の実現の仕方が違ってくる。日中謝罪文化の相違を「異質的な文化」とみるか、「異物的な文化」とみるかで対応が変わる。			
チョウアンナ	日本語・中国語の表現構造——日中翻訳にみられる相違——		
東海大学短期大学 (部) 紀要	第48号	pp. 9-17	学術論文 (紀要)
異言語の間で、日中・中日の翻訳が行なわれた時、両言語における発想の相違点はないか、それぞれどういった独特な様相を呈しているのかについて考察し、翻訳の角度から日中それぞれ言語転換の障害となる言語的な要素と文化的な要素について分析した。中国人も日本人も同じく「和」を貴ぶが、この「和」にこそ、日中文化の相違性の根源が潜んでいると考える。この日中の互いの和文化の差異は、われわれが翻訳に当たって、日中適切な言葉を斟酌するのに、また言語間の転換ができない場合に、一つ重要な示唆を与えてくれるのではないだろうか指摘した。			
真下仁	主体形成における<われわれ>関係：<われわれの間>に／として<来るべき主体性>		
東海大学短期大学 (部) 紀要	第48号	pp. 19-26	学術論文 (紀要)
<われわれ=単数>と<われわれ=複数>の関係に於いて、主体形成を考える試論。<われわれの間>の関係を、スティグレル、レイナスそしてジャン＝リュック・ナンシーの思索の中に検証することによって、その意味を失ったかに見える<主体性>への問い掛けの可能性を、その根源に於いて再検証する。			

真下仁、藤本幸男、宮川幹平、岡本武志、松本知子	短期大学型初年次教育におけるキャリア教育の位置付け：進路を意識付ける教育ユニットの開発		
東海大学短期大学（部）紀要	第 48 号	pp. 27-34	学術論文（紀要）
短期大学、特に本学の様な教養系の短期大学では、進路意識の涵養が大きな課題となっている。その課題解決に向けて、2014 年度、初年次教育の要となる「フレッシュマンゼミナール」に於いて、進路に対する意識を早期に涵養するために「進路対策ユニット」「自己発見ゲーム」等を開発・実施した。この実験的プログラムを通して見えてきた、課題の考察と改善への提案が、本誌論の趣旨である。			
松本知子	映画を用いた英語の句動詞についての一指導法		
映画英語教育研究	第 19 号	pp. 121-136	学術論文（紀要）
映画を用いて、英語学習者が苦手とする文法項目の 1 つである句動詞の効果的な指導法を提示した。大西・マクベイ (2005)、中川・土屋 (2011) を基にした不変化詞の基本イメージを中心に据え、不変化詞と動詞の意味の融合度、つまり句動詞の難易度に応じた指導法を提示した。一語動詞でなく句動詞が使われる意味とその用いられる感覚を映画の場面に基に捉えることに重点を置いた。また、映画を用いてその場面の中の動きに着目した指導をすることにより、句動詞が動きを伴ったいきいきとした表現であることをより鮮明に味わえることを示した。本稿の構成は、第 2 節で句動詞の先行研究を概観し、特にイメージを用いた指導法に関して懸念すべき点を指摘した。第 3 節では映画『ハリー・ポッター』シリーズを用いて、不変化詞 up と off を伴った句動詞の指導例を示し、第 4 節を帰結とした。			
北濱幹士、岡本武志	短期大学生における救急蘇生法の必要性に関する一考察		
東海大学短期大学（部）紀要	第 48 号	pp. 71-77	学術論文（総説）
2012 年度のカリキュラム改訂に伴い、『プロジェクト』が導入された。本報告は、2012 年度秋学期～2013 年度春・秋学期に開講された「プロジェクト研究 (Sports for All)」の概要、内容報告の他、『プロジェクト』が導入された意図、そしてその重要性について考察した。			
北濱幹士、岡本武志	「プロジェクト研究 (Sports for All)」の報告 2012 年度秋学期～2013 年度春・秋学期開講科目より		
東海大学短期大学（部）紀要	第 48 号	pp. 85-90	学術論文（総説）
2012 年度のカリキュラム改訂に伴い、『プロジェクト』が導入された。本報告は、2012 年度秋学期～2013 年度春・秋学期に開講された「プロジェクト研究 (Sports for All)」の概要、内容報告の他、『プロジェクト』が導入された意図、そしてその重要性について考察した。			
柏木翔	Cooperative Promotion System for Rural Destinations		
Asia Pacific Tourism Association 2014 Annual Conference			学会記録（一般発表）
This study explored impediments and suggestions for establishing a cooperative promotion system for rural destinations. Munakata city, Japan was used as a case study. Interviews to stakeholders revealed some issues include limited budgets, the lack of staff especially those who are trained in tourism marketing, the lack of relevant statistical data that assesses promotional activities, and inconsistent thoughts about the leadership of cooperative promotion. Nevertheless, all interviewees had a strongly positive attitude towards cooperative promotion. An analysis of the interviews provided a framework for Munakata's cooperative promotion system illustrating the current interactive relationships between stakeholders. The framework suggests the necessity of having the DMO, the MTO in the case of Munakata, as the system's leader.			
柏木翔	Career Intentions of Students Studying Tourism and Hospitality in Japan		
2015 CAUTHE Annual Conference			学会記録（一般発表）
This paper investigates the influence of tourism and hospitality (T&H) education on students' career intentions in Japan's T&H industry. A two-year Japanese college was used as a case study, and 81 students were surveyed. The results indicate that T&H lecturers should try to interest students who have no specific T&H career intentions in the T&H industry as "their second or third career option." In addition, current T&H work information such as salary and working conditions should be included in T&H lectures. This will help students with T&H career intentions seek appropriate employment opportunities.			
柏木翔	ルーラルデスティネーションにおける異組織間協働インバウンドプロモーション体制の構築に向けた問題点		
日本国際観光学会	第 18 号	pp. 58-59	学会記録（一般発表）
本研究では、地方中小都市や農村部をルーラルデスティネーションと捉え、異組織間協働インバウンドプロモーションの体制づくりの問題点を明らかにした。インタビューの定性分析の結果、資金不足、専門知識を有する人的資源の欠如、関連統計データの不足等の問題点が明らかになった。また、ステークホルダー間の協働プロモーション体制のリーダーシップや役割の問題点も明らかになった。			
北濱幹士	M市におけるスポーツツーリズムの現状とその課題		
九州レジャー・レクリエーション学会			学会記録（一般発表）
M市では、平成 27 年度からのスポーツ推進計画の施策の 1 つにスポーツ観光（ツーリズム）を加えている。これを踏まえて、M市におけるスポーツツーリズムの現状とその課題についてまとめた（本発表は宗像市スポーツツーリズム検討会議の報告書に基づくものである）。			
松本知子、平野順也（熊本大学）	参加型の英文法学習～効果的な指導法を求めて～		
日本リメディアル教育学会第 10 回全国大会発表予稿集		pp. 102-103	学会記録（一般発表）
英語の習熟度の低い学生に対し、興味を喚起し、動機づけを高めることできる語彙・文法指導の実践報告である。Nation (2001) のなじみのあるパターンや知識ほど学習の負担が少ないという指摘を生かし、学生がすでに知っている知識を活性化・再構成する作業を行った。語彙指導に関しては、単語分解法、語源・ナラティブを活用し、あえて難しい単語の意味を推測する活動を行った。文法指導についても語彙指導と同様の方法で、さらに文法項目のイメージを生かした指導を行った。			
岡本武志	めざそう！アクティブライフで健康づくり		
福岡東海キャンパス講座「学びの駅 TOKAI」			学会記録（特別講演）
【講演概要】高齢社会の到来に伴い、健康・体力づくりや介護予防の重要性が高まっている。要介護状態をひき起こす要因の 1 つとして転倒・骨折が挙げられるが、この転倒発生に関しては筋力やバランス能力等の運動機能の低下が主たる因子として関与することが報告されている。このような運動機能低下の改善に運動が有効であることはよく知られているが、ただやみくもに行えば良いわけではなく、個人の体力や健康状態に応じたプログラムを実践する必要がある。本講座では、加齢に伴う運動機能の低下に対して効果的な運動方法について、様々な研究成果に基づいたエビデンスを紹介する。			

藤本幸男	航空運賃はどこまで安くなるのか？ - LCC のコストダウンの工夫 -		
宗像市大学のまち協議会・東海大学福岡短期大学観光文化研究所・学びの駅 TOKAI 講座			学会記録（特別講演）
海外から大きく遅れた日本への LCC の飛来であるが、世界の空では超格安運賃をめざし熾烈なコスト削減合戦が繰り返されている。ライオン・エアの機内トイレの有料化、春秋航空の立ち席クラスの新設など、まだ実現されていないが、従来の常識を覆すコストダウンの提案が相次いでいる。現在の、世界と日本の LCC の実態と経営戦略を解説するとともに、航空機の安全性についても言及する。			
松本知子	英語句動詞の段階的指導～認知意味論の視点から～		
日本英語表現学会全国大会			口頭発表（一般発表）
英語母語話者の句動詞の習得過程と使用頻度の高さに着目した段階的な指導法を提案する。具体的には、BNC や COCA といったコーパスによる高頻度句動詞を基に、次の 4 段階に分けた指導法を考案した。4 段階とは、①不変化詞の基本イメージの理解、②come back や go out といった literal (directional) な句動詞の理解、③set up や go on といった aspectual な句動詞の理解、④make up や pick up といった多義性のある句動詞の理解、⑤find out や figure out といった idiomatic な句動詞の理解である。視覚化された情報を用いた方が句動詞のイメージの理解をより促すことができると捉え、句動詞の指導の導入として、映画『ベスト・キッド』を用いた指導を行う。学生の想像力をかき立てながら段階的な指導を行うことが習ったことのない句動詞の意味も推測できる応用力につながると捉える。			
柏木翔	Issues of Eco-tour Guide Policy in Ogasawara Islands, Japan		
東海大学福岡短期大学観光文化研究所所報	第 18 号		その他の文筆活動
Guided ecotourism activities are the most popular attraction in Ogasawara islands, Japan. However there is not a common guideline of eco-tour guides in the islands while three different eco-tour guide systems exist. Each system has an individually different guideline as well as objectives, effective areas and training systems. However, it is highly possible that eco-tour guide systems in Ogasawara islands face to issues such as an inconsistent performance of eco-tour guides, a neglect of tourists' perspectives and negative impact on socio-cultural assets as the development of tourism further grows in the islands due to the establishment of Ecotourism Promotion Law in Japan and the inscription of World Natural Heritage Site. Thus this paper argues the establishment of a new common guideline of all of eco-tour guide systems of Ogasawara islands and adding them to the existing policies and objectives of each system. For the decrease of a likelihood of the occurrence of the issues, four factors are examined as the new suggested common guidelines and objectives which are participants' satisfaction, protection of socio-cultural assets, knowledge of impacts of ecotourism activities and educational proficiency. Finally, appropriate absolute indicators for the suggested guidelines are explored for an assessment of them. Ogasawara islands should build common guidelines and objectives for the retainment of consistently high standard performance of eco-tour guides.			
北濱幹士	震災後のレジャーマインドを再考する -安全・安心、絆と繋がり、社会貢献、健康、自分らしさ志向に着目して-		
東海大学福岡短期大学観光文化研究所所報	第 18 号	pp. 15-24	その他の文筆活動
2013 年度の余暇市場が 11 年振りに増加したと発表されたことを踏まえ、増加した要因として東日本大震災後のレジャーマインドに着目した。震災後のレジャーには「安全・安心、絆と繋がり、社会貢献、健康、自分らしさ」の志向が見られ、どのようなレジャーマインドが地域で見られるのかについて言及した。			
藤本幸男	世界遺産を旅する（2）-「空中都市マチュピチュ」-アンデス、奇跡の文明		
東海大学福岡短期大学観光文化研究所所報	第 18 号	pp. 3-8	その他の文筆活動
世界のほかの文明と大きく異なり、アンデス文明は文字も、貨幣も、鉄器も持たず、そして麦や米の耕作もしなかった。現代の「持ちすぎる」我々からすると何とも考えさせられる「持たない」、「必要としない」文明であった。その人々がなぜ、標高 2,400m の尾根に空中都市、マチュピチュを築いたのか、その謎に迫るとともに、世界遺産マチュピチュを堪能する旅のノウハウを解説する。			
柏木翔	宗像市観光経済効果調査報告書		
平成 26 年度宗像市観光経済効果調査報告書		pp. 1-62	その他（外部資金獲得）
本調査では、全有効回答数 736 枚のうち、宗像市外からの訪問客（以下、市外客）(N=601)による宗像市内での一人当たり消費額は 2,449 円、宗像市内からの訪問客（以下、市内客）の同消費額は 2,248 円であった。また、平日の一人当たり消費額は 2,739 円(N=258)、休日は 2,179 円(N=343)であった。特に、道の駅むなかた利用の訪問客の単価が相対的に高く、全体の消費額を押し上げる効果が明らかになった。また日帰り訪問客（N=531）の一人当たり消費額は 2,011 円、宿泊客（N=70）は 5,743 円であった。上記の消費動向及び調査全体の分析から、今後の宗像における観光振興の方向性として、以下の 5 点が重要な項目であることが明らかになった。また各項目について、より詳細な内容を明らかにしていくための継続的な調査の実施を提案したい。①道の駅むなかたを含めた市内周遊化促進 ②周遊化の阻害要因の排除 ③市内周遊化を促進する旅行商品の開発 ④宗像の食、ホスピタリティを中心とした宗像のブランド作り ⑤宿泊促進、家族・親戚・友人訪問市場（VFR 市場）へのアプローチ等による物産販売チャンネルの拡大ならびに客単価の向上			
藤本幸男	宗像市観光経済効果調査報告書		
平成 26 年度宗像市観光経済効果調査報告書		pp. 1-62	その他（外部資金獲得）
宗像市より、観光経済効果調査を 2014 年度より 5 年間の予定で受託した。これは市の第 2 次総合計画の「賑わいのあるまちづくり」（観光促進）の実現を目的とした調査である。今年度は、3 月の 4 日間で回収した有効回答 736 件を基に分析し、具体的に下記を市に提案した。①道の駅むなかたを含めた市内周遊化、②周遊化の阻害要因の排除、③市内周遊化を促進する旅行商品の開発、④宗像の食、ホスピタリティを中心としたブランド作り、⑤物産販売チャンネルの拡大、宿泊促進、家族・親戚・友人訪問市場（VFR 市場）へのアプローチなどを通した客単価の向上			

3) その他の社会活動

- a. 専任教職員による官公庁等学外機関、本学園の広報機関等への公的な発表、専門知識や学識経験等を生かした活動

<研究業績表の見方>

発表者・活動者	テーマ・タイトル
	発表・活動の場所もしくは取組名称
	概要

<研究業績内容>

岡本武志	健康づくりは筋肉づくりから！
宗像市ルックルック講座	
【講座概要】加齢に伴う筋肉量の低下は寝たきりに繋がる危険性が指摘されている。その予防にはどのようなライフスタイルが望ましいのか、特に運動・スポーツに着目して解説する。【開催日時】2014年5月11日【受講対象】老人クラブ 福寿会 赤間ヶ丘一区（参加人数：39名）【開催場所】赤間ヶ丘一区公民館	
岡本武志	健康づくりは筋肉づくりから！
宗像市ルックルック講座	
【講座概要】加齢に伴う筋肉量の低下は寝たきりに繋がる危険性が指摘されている。その予防にはどのようなライフスタイルが望ましいのか、特に運動・スポーツに着目して解説する。【開催日時】2014年11月23日【受講対象】東郷コミセン 健康福祉部会（参加人数：52名）【開催場所】東郷コミュニティセンター	
北濱幹士	審判講習会講師
平成26年度 福岡県インディアカ協会主催 公認C級審判員認定講習会	
平成26年度福岡県インディアカ協会主催公認C級審判員認定講習会（会場：新日鐵住金大谷体育館）にて、講師を担当した。講義内容は、1）「生涯スポーツとレクリエーション」、2）「インディアカとその進め方」である。	
北濱幹士	宗像市体育協会スポーツ推進ビジョン
一般社団法人 宗像市体育協会	
スポーツ基本法に則り、（一社）宗像市体育協会スポーツ推進ビジョン、及び当該協会が目指す宗像のスポーツ像を作成した。	
宮川幹平	ICT活用講座
宗像市ルックルック講座	
クラウド技術を中心とした情報技術の最近の状況を概説するとともに、新しいPC環境とその活用方法、セキュリティ上の留意点について、実機デモを含めて説明した。その他、今年登場が予想される Windows10 の特徴について紹介した。	
八尋剛規	ICTの〇〇への近道
福岡市立博多工業高校全校研修会	
福岡市立博多工業高校全校研修会（会場：福岡市教育センター）において、表記のタイトルで講演を行った。現職教職員に ICT 活用を促すために、ICT は簡単に利用でき、その効率を上げることを主眼とした内容である。	
八尋剛規、宮川幹平	高等学校一斉基本研修会
福岡市教育センター、福岡市立博多工業高校	
福岡市立博多工業高校の高等学校一斉基本研修会において、2名の教諭による「授業改善（ICT利用）を取り入れた高校授業の実践」をテーマとした授業（画像工学科および機械科）の参観の後、指導助言を行った。	

- b. 専任教職員による研究所・官公庁・民間等の学外機関から委嘱を受け、専門知識学識経験を生かした公的活動

氏名	委嘱機関名	委嘱内容
北濱 幹士	宗像市教育委員会	宗像市スポーツ推進審議会委員
北濱 幹士	宗像市市民協働・環境部 文化・スポーツ推進課	宗像市スポーツツーリズム検討会議委員（スポーツツーリズム調査研究）
北濱 幹士	宗像市学童保育所（株式会社 テノ、コーポレーション）	夏休み期間中の講座開催における講師「身体活動を通してコミュニケーションづくり」
原田 慎吾	福岡県立筑豊高等学校	社会人特別講師招聘事業「ネットワーク社会におけるデジタルコンテンツ」
原田 慎吾	福岡県立若松商業高等学校	課題研究「コンピュータグラフィックス」
藤本 幸男	福岡工業大学 FITホール	1) 平成26年度第12回福岡県高等学校生徒商業研究発表大会 審査委員 2) 平成26年度第13回九州地区高等学校生徒商業研究発表大会 審査委員

真下 仁	一般財団法人短期大学基準協会	平成 27 年度第三者評価に係る評価員
真下 仁	宗像市男女共同参画推進課	平成 26 年度宗像市男女共同参画推進懇話会
宮川 幹平	宗像市 都市戦略室 秘書政策課	公式ウェブサイト再構築業務委託業者選定委員会委員
宮川 幹平	宗像市 総務課 情報科推進係	宗像市情報化推進会議 委員
宮川 幹平	福岡県立筑豊高等学校	I T パスポート対策講座 講師
宮川 幹平	むなかた電子博物館運営委員会	役員 (会計担当)
八尋 剛規	福岡市教育センター 情報教育研究室	情報教育研究室 講師
八尋 剛規	福岡市教育センター	高等学校授業改善研修講座 講師

c. 専任教員による学会等の運営に関する活動

氏 名	学会名	委員名
赤井 ひさ子	アジア教育史学会	常任理事
神山 高行	日本英語表現学会	理事
藤本 幸男	日本国際観光学会	理事 九州・沖縄部会長

d. 専任教員による外部の大学への非常勤出講

氏 名	委 嘱 機 関 名	委 嘱 内 容
亀田 俊隆	美萩野保健衛生学院	非常勤講師 2014. 4. 6～2014. 9. 30 春1コマ
佐竹 則昭	九州共立大学	非常勤講師 2014. 4. 1～2014. 9. 14 春2コマ
佐竹 則昭	西南学院大学	非常勤講師 2014. 4. 1～2015. 3. 31 春1コマ
藤本 幸男	東洋大学	非常勤講師 2014. 9. 21～2015. 3. 20 秋2コマ
八尋 剛規	福岡教育大学	非常勤講師 2014. 12. 27～2014. 12. 29

(2) 海外活動

専任教員による海外での活動 (講演・調査・研究等)

氏 名	目 的	期 間	国 名
柏木 翔	ベトナム 20th Annual Conference	6月28日～7月6日	ベトナム
林 大仁	韓国短期留学A引率	8月4日～8月17日	韓国
チョウ アンナ	研究資料収集及び現地調査	8月12日～8月20日	中国
松本 知子	ハワイ短期留学引率	9月8日～9月21日	アメリカ
柏木 翔	The Council for Australasian University Tourism and Hospitality Education (CAUTHE) 25th Annual Conference 参加および研究資料収集のため	1月31日～2月15日	オーストラリア
林 大仁	韓国短期留学B引率	2月6日～2月23日	韓国
チョウ アンナ	中国短期留学引率	3月3日～3月16日	中国

(3) 科研費応募・採択状況

	応募件数	採択件数
研究分担者分	1 (新規1)	1

1) 本学専任教員が研究代表者であるもの

2014年度該当者ナシ

2) 本学専任教員が研究分担者であるもの

研究課題 短期大学教育の質保証のための高校短大連携教育の在り方に関する調査研究
研究種目 挑戦的萌芽研究
研究分担者 神山 高行 教授
補助金額 50万円（平成24：15万円、同25：20万円、同26：15万円）

2. 研究のための条件

個人研究費は、研究の活性化および研究費の効率的運用のため、教員全員に配分される。

(1) 研究費

専任教員：17万円（学長6万円）、特任教員：（a.14万円、b.13万円）

(2) 研究に係る経費

2014年度決算 研究経費

項目	情報処理学科	国際文化学科	合計
用品費	402,005	107,900	509,905
消耗品費	96,541	261,183	357,724
図書資料費	60,112	432,298	492,410
旅費交通費	426,280	518,080	944,360
印刷製本費	0	0	0
通信運搬費	0	0	0
修繕費	0	36,342	36,342
賃借費	0	0	0
諸会費	86,900	76,000	162,900
委託費	0	75,000	75,000
雑費	0	32,324	32,324
合計	1,071,838	1,539,127	2,610,965